

Kayo Kamishima^{vocal}

江藤有希^{violin}

尾花毅^{guitar}

2019 11月24日(日)

開場 14:30
開演 15:00~

(2ステージ入替なし 途中入場可) (1drink=600円~)

MC 2800円+2drinks order

CAFE **B**EULMANS

03-3484-0047
info.cafebeulmans@gmail.com
東京都世田谷区成城6-16-5-2F

メールでのご予約の場合、
必ず当日ご連絡がとれる電話番号を
ご記載ください。



江藤有希

柔らかく美しい音色が心に深くしみわたる、稀有な存在のヴァイオリニスト。作編曲家としても数多くの作品を制作。'04年ブラジルに渡りリオの代表的演奏家と共演、レコーディングに参加。'05年よ「コーコーヤ」に参加。TV-CM、アニメ作品のサウンド・トラック制作などを行う（'11年より江藤作曲「ボンポヤージュ!」がJ-WAVEのラジオ番組「サウージサウダージ」エンディング・テーマとして2019年現在まで放送中）。シンガーとの共演も多く、EPO、ハシケン、桑江知子、鈴木重子、石塚明由子、純名里沙、Saigenjiなど演奏サポート、バレエのための作品、J-POP作品の演奏・アレンジなど幅広いジャンルで活躍。'16年、初のソロアルバム「hue」をリリース。日本を代表する強力なミュージシャン達とつくりあげた極上のインストゥルメンタル盤として高評価を得る。また笹子重治（ギター）橋本歩（チェロ）とのトリオでの活動をひろげている。www.yukivn.com

Kayo Kamishima

5歳よりクラシックピアノを習い、16歳でvocalistとしてバンド活動を開始。Rock/Pops/Soul/Funkなど'70年代ルーツの音楽を好んで唄い、その後Sarah Vaughan, Anita O'dayなどJazz Vocalに影響を受ける。20代半ばでBaden Powell, Marisa Monte, Luciana Souzaなどを聴き、Brasil音楽に傾倒。ポルトガル語歌唱をBrasil人歌手Wilma de Oliveira, Jazz/VoiceトレーニングをJazz Singer大野えり、リズム/音楽理論をPercussionistよしうらけんじ、各氏に師事。2008年よりフランス・パリ在住4年を経て帰国。12カ国旅をした欧州の空気感を表現に取り入れつつ、その後はかねてより情熱を注いでいたBrasil音楽(主にMPB)に軸足を置いて活動を展開。ポルトガル語のほか英語/仏語/日本語で唄い、国境・時代・ジャンルを超えた普遍的な「うた」を追求したユニークな選曲に定評がある。現在は、唄とギターにチェロ/ピアノ/フルート/ヴァイオリン等、アコースティックの小編成でのLiveを中心に、都内・関東近郊のLiveスポットにて活動中。

尾花毅

1967年神奈川県平塚市に生まれる。幼少期をドイツで過ごし8歳からクラシックギターを始める。帰国後は、ロックに目覚め、自身のオリジナル曲を演奏するプログレッシブハードロックバンドで活動する。大学を卒業する頃、トニーニョオルタの弾くギターに魅せられ、ブラジル音楽に没頭する。2005年頃から7弦ギターを使用し始め、それ以降ショーロにおける7弦ギターの奏法をベースとした独自のスタイルを確立させる。THEシャンゴーズ、SonDeCriebe、Grupo Cadencia、サンバオペラ等のグループに参加している他、様々なソリストの伴奏やセッションで年間150本程度のライブを行っている。